
天気雨

向日葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天気雨

【Nコード】

N1702Y

【作者名】

向日葵

【あらすじ】

バスケットボールが好きな、日向雨月と蝶田剛。

ある日蝶田剛に母の再婚によって新しい家族が来ることになった。その新しい家族である蝶田剛の妹と日向雨月が……………。

1話 友達の新しい家族

「まだまだ甘いな。日向雨月くんよ。」

「うっせーよ。中学生MVP男。」

受験が終わってからいつも俺は中学生MVP男の蝶田剛と

ちゅうだたけし

こいつの裏庭にあるバスケットのゴールを使って1対1をしている。剛にはたまに勝てるが100回やれば95回くらい負ける。それくらい強いのである。

「ちょっと一回休憩。」

剛がゴールの横にあるベンチの右側に座った。

「おいおいもう休憩か？」

と言いながら俺は余った左側に座った。

「いやっ、ちょっと真剣な話していい？」

「いいよ。別に……。で、何なの？」

「俺ってさあ、生まれた時にはもう父さん事故でいなかっただろ？
それでさ、」

剛は一回間を空けた。

「母さん、どっかの会社の社長と再婚することになって。」

「おお、良かったじゃん。」

剛はバスケットボールをいじりながら

「それだけじゃなくて、確か中2の、その、、妹が出来るんだよね。」

と顔を赤らめて言った。

「つまり、お前の再婚相手の娘ってことだろ？」

「まあそうなるな。俺と逆で新しい妹のほうは小さい頃に母親を亡くしたらしいんだ。」

「今日って、3月20日だよな？」

俺は剛に睨みつけるようにきいた。

「？ そうだけど」

「いつ新しい妹と父さんくるの？」

「3月24日。に妹が来て、27日に新しい父さんがくるって。なんか社長さんはいろいろ忙しいらしいよ。」

「じゃあさ、24日に新しい妹歓迎パーティーしようぜ！」

俺は3pラインより後ろからシュートを打ちながら剛に言った。

「別にいいよ。」

シュパツという音が夜の空に響いた。

「あれ？そういえば名字って変わるの？」

「あ、おお。忘れてた。奇跡的なことにさ、お互いに蝶田って名字なんだ。」

剛は笑顔で言った。

「すげー奇跡だな。」

剛は空を見上げた。

「んじゃもう暗くなったからまた明日な。」

「おう！じゃあな。明日は負けねーぞ！」

「ファイトー。じゃあな。」

この言葉のどこかに俺は負けれないという余裕な感じがあった。

「家族。かあ。」

その独り言は夜の空に吸い込まれていった。

1話 友達の新しい家族（後書き）

初投稿です。

忙しい年なのでいつ投稿出来るか分かりません。

とりあえずよろしくお願いします！（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1702y/>

天気雨

2011年11月3日03時09分発行